スポーツ庁
JAPAN SPORTS AGENCY

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

北海道 安平町

自 治 体 名 ： 北海道安平町
担 当 課 名 ： 教育委員会事務局
電 話 番 号 ： 0145-29-7036

1.自治体の基本情報

スポーツ庁

基本情報

面積	237.16 ㎢
人口	（11月時点） 7,221 人
公立中学校数	2 校
公立中学校生徒数	157 人
部活動数	10 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

年々人口減少及び少子高齢化が進む中、平成30年北海道胆振東部地震の影響もあり人口減少は加速、現状において学校部活動については、チームスポーツは単独で出場できる状況になく、合同チームでの出場となっている。また、指導者についても競技を経験している教員の確保は難しく制度創設当初から部活動指導員配置促進事業を活用し外部からの指導者により活動を行っていた。

令和2年に部活動地域移行に取り組むべく「安平町部活動の在り方に関する検討委員会」を設置。

検討委員会には、学校管理職、部活動顧問、総合型地域スポーツクラブクラブマネージャーを委員として迎え検討を重ねてきた。

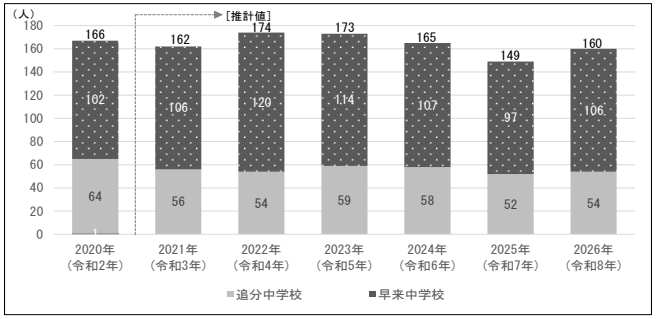
検討委においては、部活動をどうするかという視点ではなく、町としてこの先のスポーツ環境をどうするかという大きな視点でと方針を打ち出さなければならないという結論に達し、安平町としては「令和7年度末ですべての部活動をクラブ化（廃止）」「子どもから大人までの持続的なスポーツ・文化環境の構築」「これらをアビースポーツクラブを中心として構築する」ことを方針として決定した。

また、併せて当町と同様に震災被害を受け大きく人口減少している厚真町、むかわ町を含めた東胆振3町にて広域連携の可能性を探るべく担当者会議を不定期により開催し、情報の共有を図っている。

なお、令和6年10月現在当町においては9団体のクラブ化を完了し、運動部は２部活がまだ地域移行出来ておらず、クラブ化に向けて模索しているところだが、指導者・支援者が見つからない場合および生徒の継続要望がない場合においては廃部となる。

今後の課題としては、指導者に係る報酬や地域間の送迎サポートに係る費用、地域クラブ運営に係る費用等、多岐にわたる費用が必要であるが、安平町単独で進めていくには財政的にも厳しいところであり、これらの費用を捻出することは困難である一方、地域クラブの活動継続には長期的な財政支援が必要である。

また、人口減少に伴い地域クラブの人員確保における取組として、幼児期から体の動かす機会を提供し、スポーツを楽しいと思ってもらうことで、クラブへの加入を促し、子どもから大人までのスポーツ・文化環境の構築を目指していきたい。



02 部活動地域移行の概要　～安平町の部活動の状況（R６）～

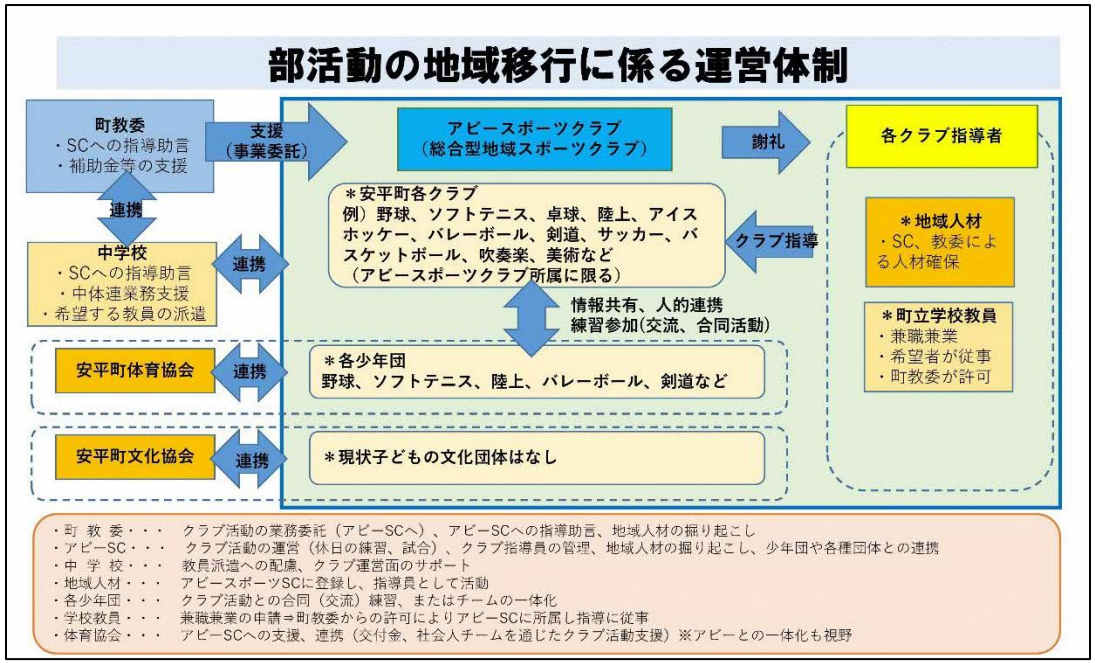
部活動	追分中学校	早来学園
陸上部	厚真陸上クラブ	厚真スローイングチーム
野球部	安平ベースボールクラブ	安平ベースボールクラブ
バレーボール部	ABIRA Volleyball Club	ABIRA Volleyball Club
ソフトテニス部	あびらソフトテニスクラブ	移行検討中
剣道部/卓球部	追分剣道スポーツ少年団	移行検討中

2.実証内容と成果

スポーツ庁

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



◉教育委員会

【学校教育G】
・部活動改革の主幹、学校との調整、連携、学校に関する事項
・アビーＳＣへの指導助言及び事業委託により運営費支援や地域移行に関わる総括的事務
・地域部活動検討委の開催、運営及び地域（保護者）説明会の開催、運営
【社会教育G】
・安平町のスポーツ・文化環境の構築

◉首長部局

・総務課情報G…広報やローカル放送を用いた地域移行の情報発信
・政策推進課政策推進G…予算措置、企業版ふるさと納税の検討

年間の事業スケジュール

令和６年４月	・剣道部・バレーボール部・野球部 ⇒ クラブ化（5部活→3団体） ・送迎バス運行 ・中体連事務作業伴走
令和６年５月	・検討委員会①
令和６年７月	・検討委員会② ・視察受入（3団体）
令和６年８月	・自動販売機設置キックオフイベント ・ソフトテニスヒアリング（2校） ・追分中、早来学園教諭説明会
令和６年９月	・生徒への説明会（２校） ・視察受入（４団体） ・保護者説明会【】（２校） ・各機関のアンケート調査実施 （生徒・保護者・指導者・教諭）
令和６年10月	・検討委員会③ ・ほっかいどう応援セミナー参加（大阪）
令和６年12月	・検討委員会④ ・あびらスポーツフェス （道教委部活動推進課主催事業） ・保護者説明会【6年生】（2校）
令和７年２月	・指導者研修会
令和７年３月	・指導者説明会（次年度以降の説明）

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	2 校	実施した地域クラブ総数	9 クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		4 クラブ（6 部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		2 クラブ
全体の指導者数	34人	全体の運営スタッフ数	3 人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者（学年別）	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数（他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
厚真スローイングチーム	NPO法人アビースポーツクラブ	陸上	月 20 回程度 平日：4日 休日：1日	平日 17：00～19：00 休日 9：00～12：00	1年：0人 2年：0人 3年：6人 合計：6人	通年	学校施設（体育館） 町内・町外体育施設（厚真スタードーム）	6 人	1名	1,600円/月	中体連：地域クラブ その他：地域クラブ
厚真陸上クラブ	NPO法人アビースポーツクラブ	陸上	月 16 回程度 平日：3日 休日：1日	平日 17：00～19：00 休日 9：00～12：00	1年：6人 2年：3人 3年：2人 合計：11人	通年	学校施設（体育館） 町内・町外体育施設（厚真スタードーム）	5 人	5名（5人指導者と兼務）	0円/月	中体連：地域クラブ その他：地域クラブ
Felire FC U-15	NPO法人アビースポーツクラブ	サッカー	月 12 回程度 平日：2日 休日：1日	平日 17：00～19：00 休日 9：00～12：00	1年：2人 2年：1人 3年：2人 合計：5人	通年	早来学園（大アリーナ） 町内・町外体育施設	10 人	2名	2,500円/月	その他：地域クラブ
ABIRA Volleyball Club（女子）	NPO法人アビースポーツクラブ	バレーボール	月 20 回程度 平日：4日 休日：1日	平日 17：00～19：00 休日 9：00～12：00	1年：4人 2年：8人 3年：7人 合計：19人	通年	追分中学校（体育館） 早来学園（大アリーナ） 町内・町外体育施設	3 人	2人（1人指導者と兼務）	2,000円/月	中体連：地域クラブ その他：地域クラブ

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域スポーツクラブ活動の運営実績

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者（学年別）	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数（他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
ABIRA Volleyball Club（男子）	NPO法人アビースポーツクラブ	バレーボール	月 20 回程度 平日：4日 休日：1日	平日 17：00～19：00 休日 9：00～12：00	1年：4人 2年：8人 3年：7人 合計：19人	通年	追分中学校（体育館） 早来学園（大アリーナ） 町内・町外体育施設	2人	1人	2,000円/月	中体連：地域クラブ その他：地域クラブ
安平ベースボールクラブ	NPO法人アビースポーツクラブ	野球	月 20 回程度 平日：4日 休日：1日	平日 17：00～19：00 休日 9：00～12：00	1年：8人 2年：8人 3年：4人 合計：20人	通年	学校施設（体育館） 町内・町外体育施設（厚真スタードーム）	2 人	6人（2人指導者と兼務）	4,000円/月	中体連：地域クラブ その他：地域クラブ
追分剣道スポーツ少年団	NPO法人アビースポーツクラブ	剣道	月 16 回程度 平日：3日 休日：1日	平日 17：00～19：00 休日 9：00～12：00	1年：2人 2年：1人 3年：1人 合計：4人	通年	学校施設（体育館） 町内・町外体育施設（厚真スタードーム）	1 人	1人（指導者と兼務）	1,000円/月	中体連：地域クラブ その他：地域クラブ
BASKETBALL CLUB ABIRA LIBERTA	NPO法人アビースポーツクラブ	バスケットボール	月 16 回程度 平日：3日 休日：1日	平日 17：00～19：00 休日 9：00～12：00	1年：10人 2年：0人 3年：1人 合計：11人	通年	早来学園（大アリーナ） 町内・町外体育施設	3 人	5 人	1,000円/月	中体連：地域クラブ その他：地域クラブ
あびらソフトテニスクラブ	NPO法人アビースポーツクラブ	ソフトテニス	月 20 回程度 平日：4日 休日：1日	平日 17：00～19：00 休日 9：00～12：00	1年：1人 2年：2人 3年：1人 合計：4人	通年	追分中学校（体育館） 早来学園（大アリーナ） 町内・町外体育施設	2 人	2人（指導者と兼務）	500円/月	中体連：立ち上げが中体連後だったことから、R7年度から地域クラブとして参加 その他：地域クラブ

③その他、体験会やイベント等の開催実績

■ イベント
- ●アビーまつり（クラブ活動合同体験会）
- ●スポーツアートチャレンジデー（クラブ活動合同体験会）
- ●あびらスポーツフェス（北海道教育委員会主催イベント）

■ 体験会
- ●ABIRA Volleyball Club（4月）
- ●安平ベースボールクラブ（10月）
- ●あびらソフトテニスクラブ（10月）

2.実証内容と成果

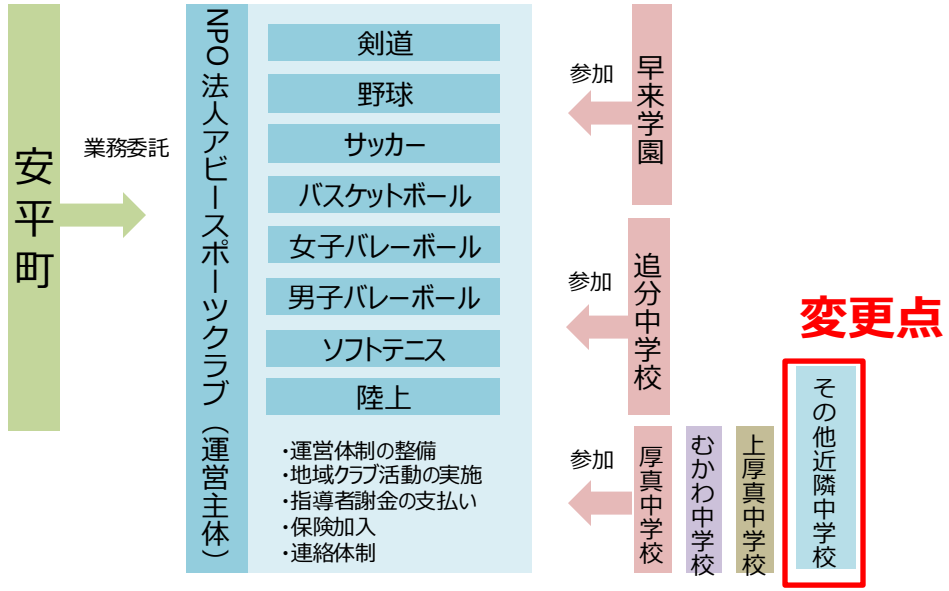
スポーツ庁

主な取組例

●クラブ　活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	剣道、野球、サッカー、バスケットボール、女子バレーボール、男子バレーボール、ソフトテニス、陸上
運営団体名	NPO法人アビースポーツクラブ
期間と日数	通年　月12回、16回、20回程度 ※クラブによって異なる
指導者の主な属性	地域人材、教職員
活動場所	早来学園（大・中アリーナ）、 追分中学校体育館 追分小学校体育館、 町内外社会教育施設
主な移動手段	徒歩、自転車、送迎バス、保護者送迎
１人あたりの参加会費等（年額）	剣道、バスケットボール：12,000円 男女バレーボール：24,000円 野球：48,000円 サッカー：30,000円 ソフトテニス：6,000円 陸上A：19,200円 陸上B：0円
１人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒１人あたり：800円/年 指導者１人あたり：1,850円/年

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

●統括責任者

役割：活動における管理者として、総合型クラブ、学校、保護者との連携を行う

●主任指導者

役割：活動における主任者として、生徒への指導を行う

●運営補助者

役割：活動において、主任指導者の補助として、生徒への指導を行う

2.実証内容と成果

取組内容

●取組項目名　ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

○総合型スポーツクラブ事業委託
- 活動の継続
  - 送迎バス運行（詳細はエに記載）
  - 指導者の養成（詳細はイに記載）
  - 資格取得費の助成
- 運営支援
  - 情報発信
  - 保険手続き
  - 大会登録
  - 会員登録/管理
- クラブ化支援
  - 説明会の実施
  - クラブ設立準備
  - 体験会の実施
  - 指導者の掘り起こし

取組の成果

○統括コーディネーターを運営団体に配置したことにより、関係団体との連絡調整・会議運営等を円滑に行うことができた。

○検討委員会の中で、地域移行の進捗共有および部活動廃止時期等の検討を行い、地域移行について理解を深めるほか、地域移行の方向性を定めてきた。

○Slackというツールを使うことで、各地域クラブへの全体周知及び地域クラブへの個別周知等、使い分けることができ連絡調整が円滑に行うことができた。

○地域移行の担当が教育委員会学校教育Gであることで、主に学校との連絡調整を円滑に行うことができた。

○週に１回程度、総合型クラブとのMTG機会を設けることで、地域移行の進捗の確認、次の動きの確認であったり、対面で行いコミュニケーションを密にとることによって、スピード感を上げることができた。

コーディネーターの具体的な動きの実績

【総括コーディネーター】
・検討委員会の調整等を実施し、関係団体との連携に努めた。
・各機関におけるアンケートの実施（生徒・保護者・指導者・教師）
・様々な会議に参加し、安平町の取組を世に発信し、また、先進地の情報を取得し共有していた。

今後の課題と対応方針

○令和7年度中に部活動地域移行の完全移行を目指しているところだが、今後は完全移行後の持続可能な体制づくり（財源確保など）を構築していく必要がある。また、中学生世代だけではなく、幼少期から大人までのスポーツ・文化環境の再構築を目指し、並行して取組を進めていく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　イ：指導者の質の保障・量の確保①

取組事項

○ダブルゴールコーチング研修の実施
　質の確保の観点から従来から総合型クラブで実施している「ダブルゴールコーチング」を必須の研修として実施する。
○体育協会参加の競技連盟（協会）、各企業等との協力体制の構築
　質の確保の観点から、町内の各団体企業との連携を構築

人材バンクの人数	人材バンクの年齢構成	登録者属性	種目	資格有無
0人	なし	なし	なし	なし

取組の成果

○全体で9クラブ指導者34名を確保した。（うち有償指導者は12名）
○教員も兼職兼業の制度で指導できる環境を確保した。
○年４回、指導者研修会を実施し、各回平均９人の参加があった。
○研修会の中で指導者同士の情報共有・意見交換を行なった。
○大人のスポーツDAYが直接指導者の発掘に繋がってはいないが、指導者発掘の手段として今後も続けていきたい。



※指導者研修会（オンライン開催）の様子

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　イ：指導者の質の保障・量の確保②

指導者研修の内容

【ダブルゴールコーチング研修】

・対象：指導者・保護者

・目的：勝利至上主義からの脱却

工夫した点：参加者の負担を減らすため、オンラインと現地と開催した。また、最後の研修会では実技（アルティメット）をとおしてコーチングスキルについて教わり、実際に指導している姿に対して講師の方から評価していただき、座学だけでは味わえない学びがあった。

指導者研修の参加実績

・開催日：　①6月24日、②8月26日、③11月4日、④2月17日

・開催回数：　4 回　（内④については、現地開催で安平町主催）

・参加人数：　36 人（延べ人数）

今後の課題と対応方針

○勝利至上主義からの脱却ということで、毎年指導者研修会を開催している。地域クラブ数も増えてきたことから、安平町としての方針（ダブル・ゴール・コーチング）を各指導者に理解していただき、パワハラ防止等に努めていきたい。

○指導者の発掘においては、現在は地域の人または関わりたい教員が指導に当たっているが、今後の掘り起こしとしては「大人のスポーツDAY」がきっかけでマッチングできたら良い。

受講者の声

参加者アンケート結果（抜粋）

■総合評価

・イベント満足度：全員が高評価（４～５点）

・再参加意向：全員が「また参加したい」「日時によっては参加したい」

■理解度と実践意欲

・体感度：全員が高評価（4～5点）

・理解度：全員が「今から実践することができる」など前向きな回答

・実践意欲：全員が高い実践意欲を示す。（4～5点）

■理解度

・ELM…全員が「今から実践することができる」など前向きな回答

・「感情タンク」…全員が「今から実践することができる」など前向きな回答

・ダブル・ゴール…全員が「今から実施することができる」など前向きな回答

■子供に足して、すぐに実践したいこと

「よく話を聞くこと」「十分なコミュニケーションづくり」「声掛けの質を上げたい」

■ワークショップの価値

・異なる種目の指導者との交流機会

・指導者としての自己振り返りの機会

・子どもへの関わり方の具体的ヒントの取得

■総括

参加者全員がダブル・ゴール・コーチングの考え方に高い関心を示し、理解度・満足度ともに高い。特に「感情タンク」や実践的なコミュニケーション手法が印象に残り、すぐに実践したいという意欲が見られる。今後は更なる実践的なワークショップの継続が期待されている。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

○町体育協会との連携（総合型クラブへの事務事業の一部移管）※最終的には団体の統合

総合型クラブへ体育協会の事務を移管（団体運営費の支出事務等）することによる各クラブの運営管理体制の一本化

○SIB/PFSの活用に係る民間企業との連携に係る協議

クラブ運営費の財源確保に向けた手法の検討（道、町、総合型クラブによる検討、連携）

取組の成果

○町体育協会との連携については、総合型クラブが体育協会事務局の一部を担うことで関係構築を行った。具体的に事務の移管という話まではたどり着いていないが、次年度以降の運営管理体制の統一に向けてさらに動いていきたい。

○北海道（Doスタート事業）と協力し『大塚製薬』の自動販売機を早来学園まなび（地域開放部分）に設置した。自動販売機の売上の一部が総合型クラブに流れる仕組みで、総合型クラブの財源確保の手段として大きな成果となった。また、ほっかいどう応援セミナーに参加し、安平町の地域移行の取組を説明したうえで、賛同していただいた企業と連携を図っている。SIB/PFSの活用については、制度上難しいと判断し、総合型クラブと判断し見送ることとした。



※ほっかいどう応援セミナーにおけるプレゼンテーションの様子



※ほっかいどう応援セミナーにおけるブース対応の様子

大塚製薬と北海道とアビーSCによるキックオフイベント



ほっかいどう応援セミナーの概要

・「ほっかいどう応援セミナーとは、道内の市町村と企業・団体のマッチングが目的で、で市町村の地域課題をプレゼンテーションし、企業版ふるさと納税や寄附などのあらゆる連携を図るセミナー。

今後の課題と対応方針

○町体育協会との連携は、少しずつ（少年団活動）総合型クラブに移管できたらと考えている。

○民間企業との連携は、大塚製薬をはじめ少しずつ連携が増えてきていることから、さらに企業を増やしていければ良い。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　エ：面的・広域的な取組

取組事項

○周辺市町村との広域連携合同活動の検討

クラブ化が進む一方子どもの数が増える物ではなく、将来的には市町間における連携が必須となる。

○町内地区間（追分-早来）の移動手段の確保

放課後のクラブ地区間の移動

取組の成果

○広域連携については近隣市町との生徒の行き来はあるものの、具体的な運営についての協議等は行っていない。次年度以降は、さらに連携深めていきたい。
○陸上、サッカー、野球、バレーボールにおいて、近隣市町村より生徒の参加がある。
○近隣市町村から生徒が参加することは、クラブ活動が活発になり良い影響が出ている。さらには、町内の子どもだけでは、成り立たないクラブもあるため活動の存続にも繋がっている。
○町内地区間移動については、総合型クラブ所有のバスを放課後活用している。保護者説明会の中でも、放課後の移動を心配している保護者も多くいたため実施することとなった。一部のクラブが活用しているが、バス運行については高評価をいただいている。
○また、行き帰りの送迎だけではなく行きのみをバス運行している。理由としては、放課後の保護者送迎は時間的にも不可能に近いが、帰りの送迎については、仕事も終わっている時間帯なので迎えに行くことが可能である。



※総合型クラブが運営する送迎バスを下車する生徒の様子

移動手段

○総合型クラブ所有のバスを活用し、生徒の活動場所までの移動手段を確保
・利用者数　　延べ946人　・運行経路　以下のとおり
通常時：①早来学園 → ②安平地区 → ③追分中学校 → ④安平地区 → ⑤早来学園
短縮授業　①遠浅地区 → ②早来学園 → ③安平地区 → ④追分中学校 → ⑤安平地区 → ⑥早来学園 → ⑦遠浅地区
・工夫した点
・全曜日のバス運行せずに、活動が多いクラブがあるかつバスを利用するクラブがある曜日に限定して運行している。
・通常授業と短縮授業で経路等を変更している。

今後の課題と対応方針

○広域連携とはいえ、生徒の行き来しか連携が出来ていないため、今後、近隣市町の連携が必要不可欠であり、密に打ち合わせを行っていきたい。
○持続的にバスを運行する仕組みが、構築できていないことから、次年度以降はその仕組みづくりに力を入れたい。（バス運転手の不足、バス運行の財源確保など）

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　オ：内容の充実①

取組事項

○体験会、活動機会の提供
- あびらスポーツフェス
- あびーまつり
- スポーツアートチャレンジデー
- 各地域クラブ体験会
- 大人のスポーツDAY
- キッズスポーツDAY
- 親子スポーツDAY
- パブリックビューイング

活動の詳細

参加人数	400 人　程度	指導者数	10 人　程度
属性	町民、近隣市町村向けイベント		
具体的な内容	イベント名『あびらスポーツフェス』（北海道教育委員会主催、安平町共催） 多世代の交流を目的としたユニバーサルスポーツ体験、多種目のスポーツを実施するマルチスポーツ体験、部活動地域移行の必要性・現状を伝え、改めて住民の理解促進を目的としたトークショーを実施した。日本ハムファイターズをはじめ、あらゆるプロスポーツ関係者にも協力いただけた。		
子供の声	● 様々なスポーツを体験できてうれしかった。 ● 伊藤大海選手が格好良かった。 ● 普段やらないスポーツを体験できてよかった。		
関係者の声	● プロ選手の指導を間近に聞くことができて、今後の指導に活かしていきたいと思った。 ● 改めて部活動地域移行の必要を知った。		
運営経費	北海道教育委員会負担（スポーツ庁委託事業：地域スポーツ連携・協働再構築推進プロジェクト）		

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　オ：内容の充実②

取組の成果

○あびらスポーツフェス

あびらスポーツフェスに参加した子どもの事例だが、今回のイベントをとおして『野球をやりたい！』と思い、地区の野球少年団に問い合わせたところ、本格的な野球少年団で、他のスポーツもやっていたことから辞めてから入団するよう言われ、どうしようと悩んでいた。その中で、安平町の総合型クラブに相談があり町の野球少年団で相談し、イベントに参加した子どもが安平町の野球少年団を選び、今も楽しく活動しているとのこと。以上の事例からも、子どもたちがやりたいことを繋げたり環境を整備したりというのが、安平町としてやらなければならないことであり、総合型クラブと協力しスポーツ・文化環境を整備していきたい。

○アビーまつり・スポーツアートチャレンジデー（合同部活体験会）

部活がなくなったことにより、部活動紹介での生徒勧誘機会がなくなったため、部活動紹介に代わるイベントとして実施した。クラブに所属する子どもが各クラブの紹介・勧誘を行うことで、クラブに所属していない子どもたちも、様々なクラブを体験しクラブに興味があると回答した子どもが多数いた。



※北海道教育委員会部活動改革推進課が作成したイベントチラシ

今後の課題と対応方針

○大きなイベントで住民の理解促進や情報の周知をしていく必要があるが、そもそも幼児期の頃から、体を動かす機会を作るイベントも大事であり、総合型クラブが企画するキッズスポーツDAYや親子スポーツDAYなど、これからクラブに入る子どもたちに対しての運動機会の提供も、子どもから大人までのスポーツ・文化環境の構築においては必要不可欠である。

○今まで部活動のときは、学校で生徒の勧誘を行ったり、活動の様子など知ることができていたが、“部活動廃止”に伴いに活動の知る機会がなくなり、また、“学校のペーパーレス化”により少年団活動の募集チラシを周知することも現状できなくなってきている。そういった中でも、団員確保の機会を持てるようにPipit（保護者配信）や町LINE@等で、町としては周知する機会を創出していきたいと考えている。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　カ：参加費用負担の支援等①

取組事項

○SIB/PFSの活用に係る民間企業との連携に係る協議

クラブ運営費の財源確保に向けた手法の検討
（道、町、総合型クラブによる検討、連携）

地域クラブに係る経費

■イニシャルコストの分析

・ユニホーム作成費用（300千円）※独自
・印刷製本費（646千円）

■ランニングコストの分析

・事務局人件費（3,825千円）
・指導者謝金（6,219千円）
・旅費・交通費（192千円）
・消耗品費（1,381千円）
・雑役務費（114千円）
・保険料（109千円）

持続的な運営に必要な受益者負担額の試算

■各地域クラブの月会費

地域クラブ	月会費
剣道	1,000円
バスケットボール	1,000円
男女バレーボール	2,000円
野球	4,000円
サッカー	1,500円
ソフトテニス	500円
陸上A	1,600円
陸上B	0円

○各地域クラブでは受益者負担の中から、連盟登録料や大会参加費、用具費遠征移動費などを賄っており、指導者報酬や消耗品以外については、国費や町の自主財源を充てている。

収支バランス

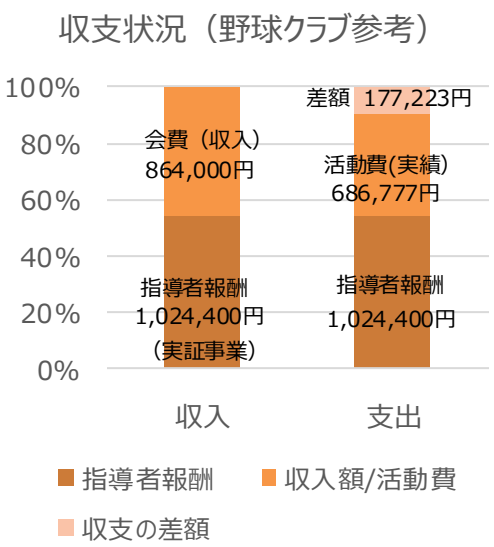
○野球クラブの例

▶会費　4,000円（月会費）
※移行クラブでは最高額
▶人数　18人

■ 収支バランスについて

・会費収入は、ほぼ活動費
・指導者報酬は全額補助に依存

選手人数が少ないため会費による指導者報酬支出が難しい。



2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　カ：参加費用負担の支援等②

取組の成果

○安平町の基本的な考え方は、地域クラブ活動に係る活動経費について地域クラブで負担（受益者負担）でと考えている。しかしながら、国が定めている推進期間（R5～R7）までは、各地域クラブの指導者報酬や消耗品については、国費や町の自主財源を活用することとした。実行期間（R8～13年）については、今後の地域クラブの動向を見ながら検討していきたい。

○受益者負担については、各地域クラブによって設定し徴収まで行っている。その中に保険料も含まれており、部活動時代に比べると受益者負担が増えてきている。しかしながら、月4,000円が会費の最大値だと想定する。これ以上の負担はなかなか厳しいと感じている。

○指導者報酬においては、R7年度まで国費・町の自主財源を活用する予定だが、R8からは地域クラブの財源によって支出するよう伝えてきたが、各地域クラブのヒアリングの中で、指導者報酬を地域クラブで負担するのは厳しいという声も多く聞こえている。

○各地域クラブで自主財源を確保する動きとして、町内外のスポンサーを見つけ、ユニホームなどに広告をつけるなどして、独自で財源確保に動きたいところだが、特に野球などはユニホームに広告を付けてはいけないというルールがあることから、地域クラブの財源確保は寄付のみに限られてしまっている。部活動の地域移行という時代の流れに合わせて、協議のルール自体も見直す必要があるのではと考える。

今後の課題と対応方針

○部活動から地域クラブ活動に移行し会費が増額することについては、一定程度の理解は得られている、一方で指導者報酬を地域クラブで負担することについては理解は進んでいない印象。持続的な地域クラブ運営は指導者がいないと成り立たないため、指導者報酬は切っても切り離せない。どうやってこの費用を賄っていくか、さらに検討していく必要がある。

○町としての考えは国の推進期間及び実行期間後には、総合型クラブの自立を目指しており、実際に総合型クラブには自立に向けて動いてもらっている。自己財源の確保に向けて、今年度は大塚製薬との連携やほっかいどう応援セミナーでマッチした企業と連携等の事例を次年度以降も増やしてほしい。

また、総合型クラブが特例認定NPOを取得したことで、寄付する側にも税制控除があり今まで以上に寄付を受けれる体制を整えることができた。

しかしながら、総合型クラブの自立に向けて動いてはいるが、最低限補助が必要な部分（送迎サポート等）は、町財源も投入することも検討していかなければならない。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　キ：学校施設の活用等

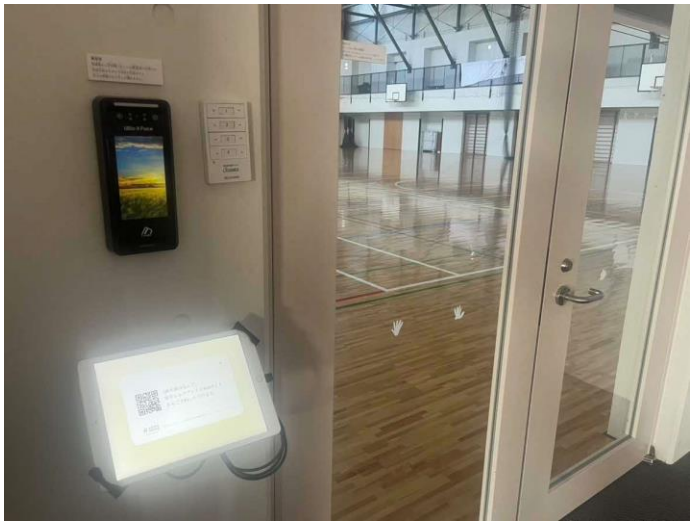
取組事項

○地域クラブ活動に対しこれまでどおり学校施設の開放を実施。
　地域クラブの活動場所について部活動ではなくなった場合においてもこれまでどおり確保

○その上で開放に対する予約方法等の手続きについて統一を図る
　各学校における活動場所の確保（予約方法）にばらつきがあり調整が煩雑

取組の成果

○いままで、学校で行ってきた施設利用の事務（施設貸出）は、令和6年度からは教育委員会で実施している。経緯としては、早来学園がすでに体育館（アリーナ）や家庭科室（キッチン）、音楽室などを生徒と住民が利用出来る「供用エリア」とし、ICTを利用した予約システムやスマートロックを導入してセキュリティ確保するとともに、学校運営から切り離し、学校施設の共同利用を実現している。追分小学校及び追分中学校においても、ICTを利用した予約システムの導入も視野に入れ検討していきたい。



※早来学園まなびお大アリーナの入口に設置してある顔認証システム

今後の課題と対応方針

○今後、学校施設の利用において有料化を目指している。有料化に向けて条例の整備等を行っているところだが、クラブ活動においては減免の措置等の検討が必要である。

○また、クラブ活動が増えてきたことにより、活動場所が被ってきてしまうことから、施設利用会議（上半期・下半期）を開催し不公平の内容に施設の割り当てを行っていく必要がある。

2.実証内容と成果①

スポーツ庁

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

○令和7年度末に完全移行を目指す安平町は、検討委員会でゴール設定を早めにしたことによりスピード感のある地域移行が行われている。また、平日・休日と分けて考えず、学校側の意見も取り入れゴール設定をしたことで、先生方の不公平の無いように地域移行を目指している。

○教員の負担軽減においては、前々年度、前年度に比べて残業時間も減っており、部活動に充てていた時間を教材研究に費やすことができ、授業の質向上に貢献していると思われる。

○専門的な指導者がクラブの指導を担っていることで、クラブ活動が活発化し、結果にもつながってきている。ここで述べたいのは、結果ではなく教員が担っていた顧問だと限界があった指導部分を地域の有資格者の指導者が担うことで、子どもたちにとっても専門的な指導を受けることができている。

○最後に安平町は地域移行が進んでいる理由を分析すると、住民の理解が進んでいることが大きな要因である。『地域で子どもたちのスポーツ環境を守りたい』という保護者の想いから地域移行が進んでいるが、一方で費用負担の増については負担と感じている保護者がほとんどである。

●成果の評価

○部活動地域移行の進捗は、他地域に比べても比較的進んでいる。残りの部活（ソフトテニス・卓球）においても、移行若しくは廃部の方向性をだしていかなければならない。また、地域移行後の持続可能な地域クラブ運営の体制は、この2年間の検証を踏まえ検討していかなければならない。

○アンケートの結果、一定数の部活動地域移行に対して理解はあるが、部活動よりも保護者の負担（会費・送迎・事務）が増えることに対して不安の声も多い。また、指導者ヒアリングの中でも、安平町としては令和8年度以降に指導者報酬は地域クラブで負担してほしい旨説明したところ、『丸投げ』、『町は寄り添っていない』など、地域クラブだけではどうにもできない現場の声があった。こういった声を取りこぼさず、今後の運営体制も改めて検討していかなければならない。

●今後に向けて

○令和7年度に完全地域移行を目指しており、まだ移行できていない部活動についても年度内に完了させる。

○地域移行後の持続可能な地域クラブ運営に向けて、受益者負担の負担軽減に対しての補助等の検討であったり、また、幼児や小学生に対して新たに『バルシューレ教室』を実施することで、運動機会の提供および体を動かす楽しさを知ってもらい地域クラブ員の確保につなげていきたい。

○総合型クラブ自立に向けての取組として、さらに民間企業との連携を増やし、寄附の受け入れ態勢を整え、クラブの自主財源の確保に努めていきたい。また、総合型クラブの人員確保においては、一定数ボランティアで総合型クラブと関わりたい方々もいることから、指導者と別に事業運営、事務作業の協力をしてもらう多様な関わり方ができるサポーターバンクを整備していきたい。併せて、SNSで広く発信していくことで、総合型クラブの取組や事業に対しての理解促進を図ることで、町内外に総合型クラブのファンを生み出し町全体で、子どもから大人までのスポーツ・文化環境の構築に臨んでいきたい。

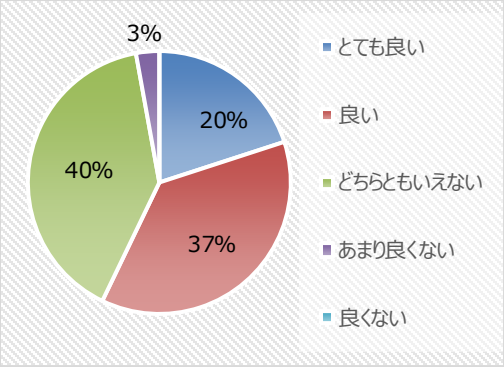
2.実証内容と成果②

スポーツ庁

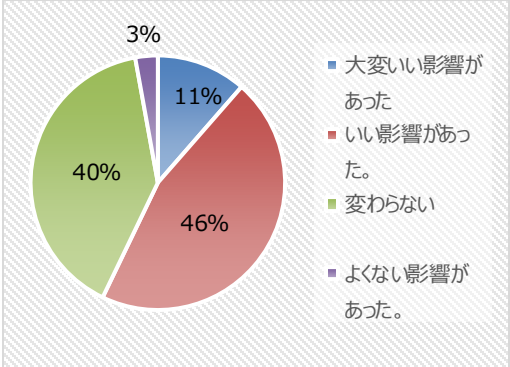
アンケート結果・参加者の声

●アンケート結果

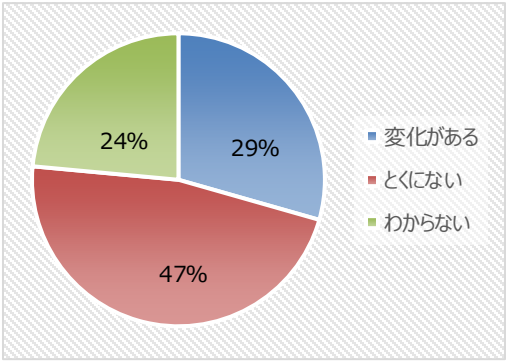
Q．部活動が地域移行されてどう思いますか。（生徒・保護者・指導者）



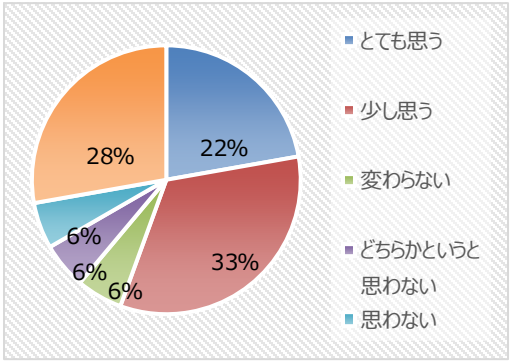
Q．地域移行によって活動の質や成果にはどのような影響がありましたか？（生徒・保護者・指導者）



Q．部活動地域移行をしたことで、生徒との関係性や関わりに変化はありますか？（教員）



Q．部活動の地域移行を進めることで、安平町の目指す公教育に近づけたと思いますか？（教員）



●参加者の声

選手(good)
子どもの数が減ってきているため、学校単位の部活だと人数が中々揃わないところをクラブ化することによって少し改善できるのかなと思ったため、地域移行されてよいと思った。

保護者(good)
一貫した指導体制が取れる事や保護者が子どもの活動に積極的に関われる機会が生まれた。

保護者(more)
活動費や送迎など家庭で担うことが増える。

保護者（more)
送迎や練習時間、活動場所の確保の難しさがある。

指導者（more)
指導者の後継者がいるか不安

教員（good)
部活動が地域移行することによって放課後に時間が生まれ、本来の業務である授業準備等に時間を使えるようになったから

教員（more)
生徒の活動の様子や考え方など、今までの部活動のようにわからないことが多くなったと思います。

2.実証内容と成果③

スポーツ庁

アンケート結果・広報資料

【大人のスポーツDAY】



【アンケート結果】

■選手・保護者・指導者

○**ポジティブ**…地域移行は概ね好評。低学年の参加、活動時間の柔軟性、地域全体の参加増が評価されている。

○**中立**…活動の質や状況に大きな変化を感じないという意見もある。特定の問題は未解決で、現状維持と感じる人もいる。

○**ネガティブ**…コーチの事務負担や送迎支援の難しさが指摘されている。高齢コーチの技術サポートへの不慣れも課題である。

○**メリット**…多世代の参加、活動時間の柔軟性、専門的指導

○**課題**…事務作業の増加、送迎問題、金銭的負担

○**総評**…地域移行は概ね好評で、参加機会拡大や専門的指導が評価されている一方で、送迎や事務行の負担増が課題であり、解決に向けて、送迎支援や事務作業サポートおなど、運営体制の改善が必要。

■ 教員

○**ポジティブ**…多くの教員が地域移行に前向きで、「地域全体で子どもを育てる」視点や多世代交流の場としての意義や、生徒が多様な価値観に触れる機会が増えた点が評価されている。

○**中立**…移行後の効果を実感できておらず、生徒と教員の関係に大きな変化を感じていない。

○**ネガティブ**…運動機会を失う生徒への懸念や、公教育の強化につながるとは限らない。

○**メリット**…多世代交流の促進：幅広い年齢層や多様な背景を持つ指導者との交流が増加。教員の負担軽減：部活動指導から解放され、授業や他の業務に中できるようになった。

○**課題**…地域移行の効果が不明瞭、指導者の負担が懸念されている。

○**総評**…教職員の多くは、地域全体で子供を育てる意義を認めつつ、効果がまだ見えにくいと感じている。多世代交流や教員の負担軽減は評価される一方で、指導者不足や生徒の運動機会減少が課題であり、今後は、地域連携強化や指導体制の確立が求められている。

2.実証内容と成果④

スポーツ庁

参考資料（活動写真）



【新中学1年生（7年生）保護者説明会】



【指導者研修会（実技）】



【スポーツ・アートチャレンジデー①】



【スポーツ・アートチャレンジデー②】

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和２年		令和５年		令和６年	令和８年
検討委員会の設置、検討開始	部活動指導員促進事業を活用	令和7年度末、完全移行を方針として掲げる。	生徒、保護者への説明	地域クラブ活動の開始	地域移行完了 持続可能な運営体制の整備

ステークホルダー

学校、総合型クラブ、体育協会、地域クラブ、
市長部局、町教委、総括コーディネーター

経過

令和２年度より検討委員会を設置し、総合型地域スポーツクラブNPO法人アビースポーツクラブを運営団体とし、安平町のスポーツ・文化環境の整備を行ってきた。はじめは、部活動指導員促進事業を活用し教員の負担軽減に努めてきたが、国で定めた推進期間（令和5～7年）に準じて、令和5年度の検討委員会の中で、平日・休日分けずに地域移行すること、また、ゴール設定をしないと先が見えないため、推進期間最終年度の令和7年度末までに完全地域移行という方針を掲げ進めてきた。また、部活動だけを切り抜き考えるのではなく、少子化や人口減少という背景もあることから、子どもから大人までのスポーツ・文化環境の構築を「できる人がいるうちに、やる機会を創る。」というテーマで部活動地域移行を進めてきた。

実施内容

令和5年度より、本格的に地域移行を進めてきたが、令和5年度中に2校（早来学園、追分中学校）2部活のクラブ化を実施、令和6年度においては、６部活のクラブ化および部活にはなかった新たなクラブの発足し、合計で9クラブが活動している。追分中学校においては、運動部の地域移行が完了し、早来学園の2部活（ソフトテニス、卓球）のみとなっている。こちらにおいては、生徒の活動継続の要望や指導者・支援者の発掘がない場合は、令和7年度末をもって廃止とすることが決定しているが、時間の許す限りクラブ化に向けて動いていく。

今後の展開

令和7年度で完全移行が完了する予定なので、地域移行完了後の持続的な地域クラブ運営に向けて、多岐にわたる財源の確保や地区間の送迎サポート、人口減少による地域クラブ員の確保に向けて、様々な取り組みを実施することで、安平町の目指している『子どもから大人までのスポーツ・文化環境の構築』を目指していく。また、中体連の事務局が令和8年度に控えており、新たな挑戦として事務局を学校ではなく、総合型クラブで担う方向で考えている。新たなモデルケースとして取り組んでいきたい。

3.今後の方向性

スポーツ庁

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

